

ニュースレター by JORA(2004.12 要旨)

1. 行事

(1) 有機資源循環利用国際会議2004 IN 秋田

2004年10月5日～7日、秋田県立大学の秋田キャンパスで同会議が開催され、8カ国からの18人の研究者が講演した。

3日間の期間中、10カ国から200名以上の聴衆が参加され、盛会であった。

(2) ANOR運営委員会

同会議と併行して、10月6日に運営委員会が開催され、以下の議題が討議され議決された。

(a) 規約の改訂：民間企業が会員に加わった。

(b) 新会員の承認：ネパール、タイ、ニュージーランドから各1団体、豪州からの2団体が新会員として認められた。10月6日現在、会員は14カ国、地域からの28団体になった。

(c) 今後のANOR活動の一つとして、豪州、ニュー・サウスウェールズ州政府のギレスピー氏より、有機資源の国際間移動の研究が提案され(後記)、討議の結果、研究を継続する事になった。

(3) 有機資源循環利用国際シンポジウム IN 杭州、中国

秋田の国際会議、ANORの運営委員会に続き、10月9日～11日に中国の杭州で浙江大学主催の国際シンポジウムが開催された。

10カ国からの20名の講師が講演され、秋田同様盛会であった。

2. 情報

(1) 地球政策機構 (Earth Policy Institute) の緊急発表 (2004年12月15日付け)

レスター・アール・ブラウン氏の著書“水位の低下と気温上昇下における食料確保への挑戦”の第3章“食料安定供給の輪・効率の向上”を次のウェブサイトで参照されたい。

www.earth-policy.org/Books/Out/Contents.htm

(2) 鶏糞処理と応用に関するワークショップ・国際会議開催

EU(ヨーロッパ連合)がスポンサーになっている、アジア・エコ・プログラムの一つの事業として、本ワークショップがハンブルグで2005年1月19日～20日に、又国際会議が2006年3月にクワラルンプールで開催される。

JORAは、ANORの会員である、マレーシアのプトラ大学の要請で、ワークショップに講師を一人派遣する予定である。

3 . Mr. Gillespie の提案

(1) 提案理由

豪州は過去 200 年以上にわたり、世界へ食料を供給する主要な輸出者であったが、特に日本のようなアジアの貿易相手先に対する、食料の安定供給が、将来、困難になると思われる。

- * 豪州の食料生産能力は、食料の生産が続く中で、重要な栄養素、特に燐の様な物質が土壌に還元されない事から、土質が劣化し、長期的に生産力が落ちてくると思われる。
- * 一方、日本においては、多くの市街地で、食料の残渣が土壌に過度に放出される事で、富栄養化、劣化がますます進む事になる。

従って、日豪の貿易当事国双方に取って、食料の安定供給と環境の保全を図る為には、この栄養素の問題がある事を、十分に認識しなければならない。

重要な戦略は、如何にして、日本で過剰になった栄養素を、豪州に持ち帰り農地に散布し、安定した食糧生産、輸出能力を維持するかである。

このプロジェクトでは、

- * 豪州の実験農場である、W A G A W A G A で栄養素の農地への還元方法の技術的、組織的研究と、具体的な作物生産を研究する。

* 豪州の土壌の劣化及び日本の富栄養化の問題だけでなく、食料の安定供給の為のエコ技術の開発並びに食料生産システムの再構築を研究する。

2 . 行動計画

廃棄物ゼロ豪州は、現在、豪州のW A G A W A G A を実験農場として、エコ技術を使って、地域の廃棄物を如何にして、付加価値の高い商品に転換出来るかの研究を進めている。前述の日豪の問題解決にも役立つと思われる。

- * 日豪における、バイオ・コンバージョン並びに栄養素転換手法の研究
- * 日豪における、食料の安定供給の観点に立った、上記手法の採用に対する、政府間並びに産業間の合意の取り付け。
- * 本件に関する更なる技術情報提供は、廃棄物ゼロ豪州が行う。

以上